



ともに汗を流し、 緑を復活させよう 国際親善少年大使 フィリピンへ

現地の人たちと協力して2種類1000本を植栽
言葉は通じなくても心と心の深いきずなが生まれました

東山国際交流協会(鈴木富子会長)は、国際親善少年大使事業として、少年大使を含む17人をフィリピンへ派遣。一行は熱帯雨林再生のための植林に汗を流し、現地の人たちとの交流を通してきずなを深めました。

一行は1月7日に出発し14日に帰国。少年大使の東山中の鈴木さきさん(中2)、鈴木美音さん(中2)、千葉悠加さん(中1)、千厩高2年佐藤悠佳さん、一関二高2年高橋志帆さんの5人は、ホームステイをしながら現地の活動に参加しました。鈴木会長は「植林は10年を迎えました。これからも心と心のつながりで継続させていくことが大切です」と話していました。

地域全体で子どもをはぐくむ 田河津教育振興運動実践協議会

1月27日、田河津公民館を会場として田河津地区教育振興運動実践協議会(小野松男会長)が開催され、親、学校、行政区長、民生委員ら約50人が参加して各地区の活動報告のほか教育について意見交換を行いました。

子ども、親、学校、地域、行政が総ぐるみで地域の教育課題解決に自主的に取り組む教育振興運動に、田河津地区は全世帯が加入しています。意見交換では、不登校問題や不審者から子どもを守るための方策など、多くの意見が交わされました。

「ありがとう」の気持ちをこめて 松川保育園 かわいいお茶会

2月3日、松川公民館主催の第5回子どもランドが開催され、松川保育園(千葉和子園長、園児45人)つき組の園児14人が松川2区老人クラブ楽笑会女性部いきいきクラブ(小山博子会長)を招いて感謝のお茶会を開きました。

同クラブは、詩吟の指導、さつまいもの苗植えや収穫祭などボランティア活動で園児と交流。園児たちは感謝の気持ちをこめて、練習したお点前を披露しました。



親、学校、地域、行政それぞれの立場から積極的な話し合いが行われました



園児服を着物に着替えてお茶を運びました

室 根

楽しく演奏する園児たち



折壁保育園児孝養ハイツ訪問

1月20日、折壁保育園(畠山悦子園長、園児77人)の年長組園児21人が、室根孝養ハイツを訪問し演奏と歌を披露しました。

この訪問は、同施設開設以来行っていて、入所者が毎年心待ちにしています。園児たちは、デイサービス利用者も交えた大勢の前で、演奏と歌を一生懸命かわいらしく披露。おじいさんやおばあさんたちは、手拍子を打ったりして聞き入っていました。

最後に、園児から入所者全員にみかんをプレゼント。参加した園児は「うまくできた。楽しかった」と満足げな様子でした。

室根中学校(田中繁校長、生徒190人)の生徒4人が、1月4日から14日までの11日間、アメリカのノースカロライナ州ダーハムを中心に研修を行い、ホームステイしながら、現地の高校生との交流や施設見学などで、アメリカの文化にふれました。

参加した小野寺達也君は「アメリカの文化を学んだ。英語の難しさを痛感した」、岩渕梨理さんは「文化や食べ物の違いを学べた」、熊谷咲衣さんは「英語の楽しさと難しさを学んだ」、熊谷望さんは「国際交流の大切さを感じた。今後は英語に力を入れてがんばりたい」とそれぞれ感想を述べました。

この研修は今年で10回目を迎え、のべ33人が参加。参加者は今後、研修の成果を各小学校で発表する予定となっています。

中学生海外研修



ホストファミリーと研修生

稚魚を放流する及川さん



津谷川小で鮭を迎える会

1月24日、津谷川小学校(酒井隆校長、児童35人)で鮭を迎える会が行われました。同校では6年前から環境学習の一環として、鮭の飼育を行っています。

今年も、津谷川下流の小泉川鮭増殖組合鮭孵化場(及川慶一場長)から鮭の稚魚と有精卵が贈られ、児童の代表が「鮭の稚魚を頂きありがとうございます。大切に育てます」と感謝のことばを述べました。

鮭は、4年生8人が中心となって飼育観察し、3月1日に津谷川へ放流する予定です。

ふれあいカップスキー大会

1月29日、浜横沢体育協会(金森三男会長)主催の第7回ふれあいカップスキー大会が、走沢スノーランドで行われました。

特設グレンデに作られた延長約200メートルのコースで、アルペン競技(大回転)が行われ、室根スキー協会員の模範演技の後に小学生が学年・男女別に8部門に分かれ熱戦を展開。中には大人のタイムに迫る健闘を見せる選手もいました。

大会の結果は次のとおりです(敬称略)。

6年生の部優勝=小岩希未・遠藤優子、5年生の部優勝=熊谷遼太・菅原美穂、4年生の部優勝=千葉一平・小山祐佳、3年生以下の部優勝=遠藤裕也・菅原里美



優勝目指して元気にスタート